

専門ブランド「ガチ倉庫」でがっちり

コストパフォーマンスに優れた独自技術のアイワフレーム工法をはじめ、社屋や店舗、病院、一般住宅まで様々なニーズに応えている総合建設業の愛和建设(株)(本社・山形市北町、横山隆太代表取締役社長)は、物流業界の「2024年問題」で予想される倉庫需要の増加に対応し、倉庫・工場建設の専門ブランド「ガチ倉庫」を立ち上げた。「ワクワクするような出来事を仕掛ける会社」「心ときめく会社」をスローガンに掲げる横山社長を訪問した。



物流業界の「2024年問題」など社会の変化を的確にとらえ、成長に向けた取り組みを開始している横山隆太社長(左)と「人を活かす、人が本位の会社」を経営理念に社業発展をけん引した横山正己会長

「アイワフレームの特長と専門ブランドを立ち上げた経緯についてうかがいます。」

横山社長 当社オリジナル工法のアイワフレームは、軽量鉄骨を用いたシステム建築で「低価格」・「短工期」・「高品質」など多くの特長があります。設計から生産・施工まで当社工場での一貫体制で行っており、高品質で安定した建物を提供しています。工場・倉庫はもちろん、事務所や店舗・アパートに至るまで、恒久的な建物にも幅広く採用されており、工期も短く、機性能が高く、デザインの自由度が高いのも特長です。適切な品質管理体制・検査体制や技術力が評価されて、Rグレード(国土交通大臣認定鉄骨製作工場)の認定を受けています。

専門ブランド「ガチ倉庫」を立ち上げた直接のきっかけは、物流業界

の「2024年問題」です。ドライバー不足に対応するため、物流拠点が分散化し、比較的規模の小さい倉庫需要の増加が予想されることから、当社の強みである「低価格」「短工期」「高品質」に対するニーズに着目しました。併せてIC近くなど交通アクセスの良い土地を探すほか、施工、建築する上での申請業務のサポートも行なっています。

ブランド名の「ガチ倉庫」は「価値ある倉庫」を建てるという意味と、耐久力のある「がっちり」をイメージし、掛け合わせました。

「1976年の酒田大火以降、現場で復興支援を行なっています。」

横山社長 当社は(一社)プレハブ建築協会に所属しており、災害時に被災された方々に一刻でも早く応急仮設住宅を提供できるように災害救助法に基づき建設体制を整えてきました。阪神大震災では50戸、新潟県中越地震では16戸、東日本大震災では196戸の仮設住宅を建設しました。甚大な災害で住まいを、故郷を、家族や友人を、そして日常生活



「低価格」「短工期」「高品質」を実現するガチ倉庫の見学会で専門ブランドをPRする女性社員。女性が活躍する企業を目指す



1992年1月1日付の山形新聞に掲載された全面広告



山形市鳴北シマカラ展示場にオープンした注文住宅カネックスホーム

愛和建设(株)

創業1944年4月(会社設立95年12月)
 代表者 代表取締役社長 横山隆太
 本社所在地 〒990-0821 山形市北町3-9-15
 ☎023-664-0068
 グループ会社 (株)カネックス、(株)Y.D.K

を失った被災者のために全力で取り組みました。「早く何とかしてあげたい」という使命感のもと、迅速な対応を心掛けました。南相馬市西町地区の自治会との親睦を深め、5年間にわたって山形の風物詩「芋煮会」に招待させていただきました。被災された方々の元気の源になることができればとの思いです。

—成長に向けて社員と一体となって取り組んでいます。

横山社長 当社は旧東南建設の歴史ある実績・建設技術とプレハブメーカーの「カネフジハウス工業(株)」のフットワークが結び付いて95年に誕生した建設会社です。

私は2003年に愛和建设グループのカネックスに入社、05年に当社に移り常務、専務を経て17年6月に、実質的な創業者といえる父横山正己取締役会長の後を継いで社長に就任しました。就任2年目から成長に向けた

取り組みを開始。社員を増やし、異業種からも情報を収集、バックオフィスのデジタル化、若手社員による「アドヴァンス・プロジェクト」を立ち上げました。女性や若手社員が提案、アイデアを出してくれることを期待していますし、手ごたえを感じています。

11月には山形市鳴北のシマカラにカネックスホームの展示場をオープンしました。

先代社長が1991年11月から1年間、山形新聞にシリーズで掲載した全面広告があります。斬新な紙面で、月ごとのメッセージが当社の財産となっています。紹介します。

「ひとりひとりが本領を発揮できるように環境を築き上げたい。全力で挑む。痛快に働く。人を生かす、人が基本の会社です」。「女性の夢や情熱が僕らの職場を変えてゆく。女性が積極的にトライできるうんと魅力ある会社になりたい」。「まいにち、まいにち洗い立ての仕事しよう」。「大切なのは、元氣ワクワクのチームワークなのだ」。「走っているんじゃない。僕らはめざしているんだ。枠にとられない若々しい発想、創造、挑戦を原動力に、今日を追い抜いていくスケールの大きな企業を元気にめざします」。

30数年前の言葉が心に響きます。